

平成31年度 事業報告書

大慈デイサービスセンター

1. ≪基本方針≫

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. ≪平成31年度重点目標≫

『ADLが維持できるデイサービスの実現』

3. ≪部門別目標≫

〈ケア部門〉

① IADL(手段的日常生活動作)を維持することで在宅での生活を安心して送れる。

洗濯サービスを固定的に利用する利用者の増加に伴い、利用者様にお手伝いいただく風景が当たり前となっている。個性を生かした参加や活動を目的に、園芸療法作品の水やりや経過観察、制作活動等、利用者様と共に作業を行っているのが特徴の一つとなる。今年度、帰宅願望や離園に繋がる事例が1件あった。今では、趣味の将棋を他の利用者様とする事が日課となり、食事・入浴が安定し、必ず通所して頂けるまでになった。

② 職員の介護技術スキルアップを目指す

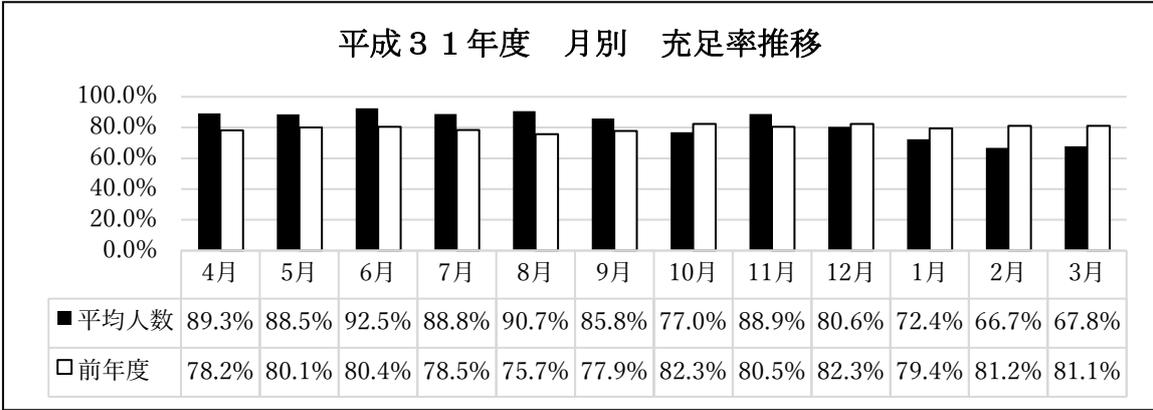
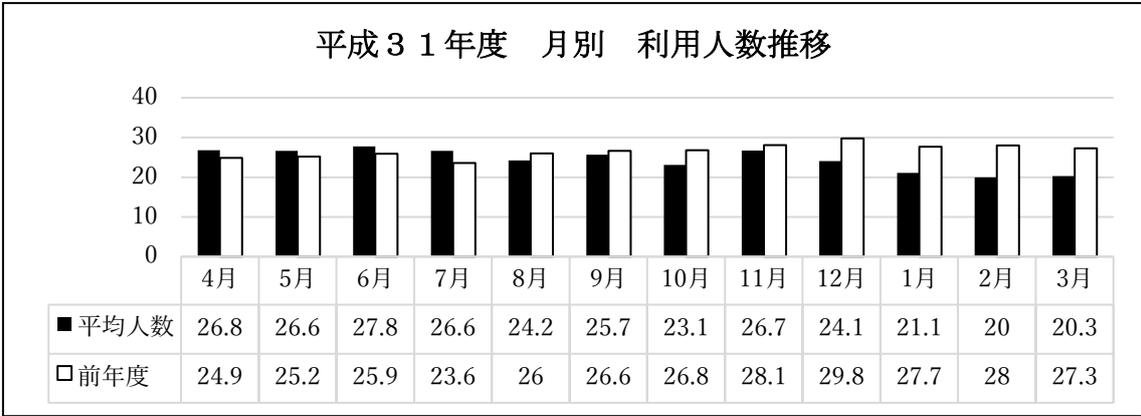
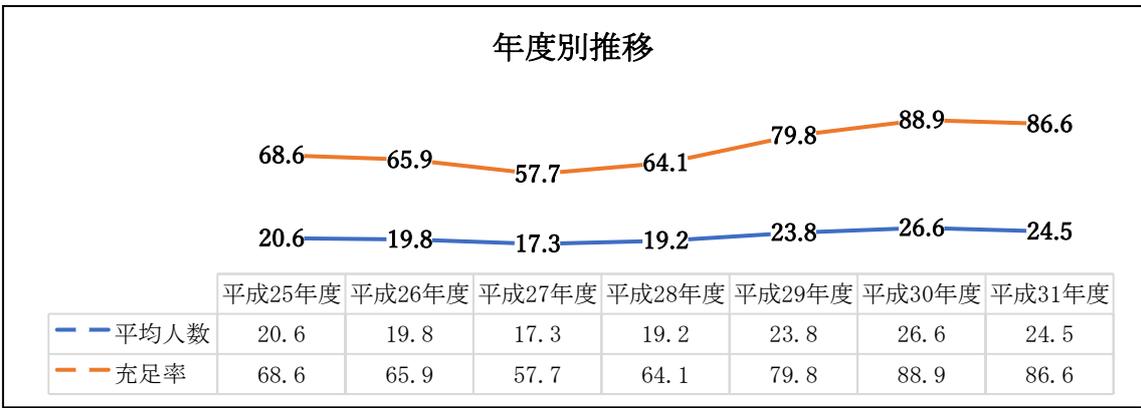
福祉用具の設定をご家族・ケアマネジャーと考え、利用していただく事で、過介助とならず、極力歩行機会を増やし、見守り中心の介助を行った。

OJTについては、新人職員への研修担当者を固定し、研修担当職員の成長にもつながり、介護技術・スキルの向上も図れた。利用者様の情報や介助方法を検討し、見える化(引き継ぎシートの活用)した事で、ケア方法も統一されつつある。次年度においても、引き続き職員間の情報共有や育成を意識した行動をとっていきたい。

〈経営部門〉

- ① 充足率 90% 及び平均登録者 40 名を目指し、経営基盤の安定を図る。
- ② 広報戦略を練り、新規顧客獲得を目指す。

平均利用人数・充足率共に減少値を示した。新規利用者と並行し、登録抹消者や 1 2 月～3 月においては、入院者の増加が見られた。次年度においては、利用回数の調整や新規顧客獲得に向けた戦略会議を重点的に行い、充足率の増加を目指す。



●加算等別件数

		前年度 平均	今年度 平均	差
洗濯サービス	人数	26.0	24.8	-1.2
園芸療法	人数	2.9	2.3	-0.6
弁当	人数	5.0	14.1	9.1
	回数	148.9	206.6	57.7
学習療法	人数	5.0	3.6	-1.4

●介護度別年齢別等人数表

要介護度	平成31年度				平成30年度			
	合計 人数	男	女	平均	合計 人数	男	女	平均
支援1	38	11	27	86歳	85	26	59	85.2歳
支援2	89	30	59	86.3歳	60	21	39	86.2歳
1	273	101	172	86.1歳	311	109	202	86.5歳
2	138	32	106	88.9歳	160	67	93	88.4歳
3	146	78	68	85.1歳	192	78	114	83.6歳
4	49	17	32	84.7歳	77	18	59	86.7歳
5	73	26	47	79.2歳	103	38	65	80.7歳
合計	810	295	511		988	357	631	
平均 介護度		2.4	2.3	2.3		2.4	2.4	2.4
平均年齢		83.2歳	87.5歳	85.3歳		82歳	87.5歳	84.7歳
最高年齢		94歳	97歳			95歳	100歳	84.5歳
最小年齢		66歳	76歳			66歳	56歳	

〈栄養科〉

- ① 調理の味と質の安定を図る
- ② 毎日笑顔になれる食事の提供

「調理の味と質の安定をはかる」については、検食簿、給食会議にて出た意見を元に、厨房スタッフと随時検討を行い、調理法の改善や食材変更等を行うことで達成できたと考える。しかし、委託会社との話し合いにより業務改善を行う中で、厨房会議を実施することができず、大きなメニュー改善につなげることはできていない。

「笑顔になれる食事の提供」については、今年度はバイキングの実施や新たなメニューの取入れを行うことはできなかったが、特別週間として土鍋週間を設け、その場で調理することにより味だけでなく香りや雰囲気を楽しんでいただくことができた。また、正月には餅つき週間を設け、ゲストと共に餅や白玉を作り、レクリエーションの一環として行うことができた。

次年度は委託会社の変更に伴い、調整が必要となるが、体制を整え、ゲストにより楽しく安全な食事を提供できるよう努めたい。

●年間行事食

日付	行事名
4月	園庭花見
5月	母の日週間
6月	父の日週間
7月	七夕週間
8月	夏祭り週間
9月	敬老週間
10月	
11月	
12月	クリスマス週間
1月	餅つき週間、白玉ぜんざい作り
2月	ひな祭り週間
3月	

※ 毎月 誕生日週間

〈看護部〉

○異常の早期発見

昨年度同様、デイサービスでの看護職員の役割として、異常の早期発見と緊急時の対応が非常に重要であり、知識の向上とスキルアップを目指し努力していく必要がある。今年度においては、関係事業所との連携(処置内容の確認と実施)を図り、連絡ノートでの情報共有に努め、早期発見及び処置施行が出来た。今後も、現場職員との連携強化に努め、利用者様に適切なケアが提供出来るようにしていく。

〈理学療法科〉

- ①生活機能レベル低下の恐れがあるゲストへの提供…利用日
- ②日常生活内動作へのアプローチ(相談→助言)…必要時
- ③機能レベル維持・向上ができるデイサービスセンター作り

対象としているゲストに関しては、機能訓練指導員指示のもと、サービスの一環として、歩行訓練等を継続して実施している。また、適宜ゲストの生活内における軽微な運動等についてのアドバイスも実施している。今後も、総合事業の目標設定や機能の維持・改善等も含め、利用していただく方が楽しみながら、機能が維持できる様なセンターを作っていきたい。

4. 〈施設整備等〉

建物や設備の老朽化に伴い、施設環境整備を行う。

5. 〈職員会議・OFF-JT〉

☆ 特別養護老人ホーム大慈弥勒園同様

6. 〈行事の実施内容・反省点〉

●年間行事

行事名	時期
園庭お花見	4/2～4/7
母の日会	5/6～5/11
ガイアクローチェ慰問	5/29
父の日会	6/10～/15
デイサービス夏祭り	8/5～8/10
敬老会	9/8～9/14
秋の外出・ランチバイキング &道の駅あわじ	10/8～10/27
買い物ツアー	11/18～11/30
クリスマス会・きらくに歌おう会 慰問	12/17～12/25
もちつき大会・白玉ぜんざい作り	1/6～1/12

7. <<リスクマネジメント報告>>

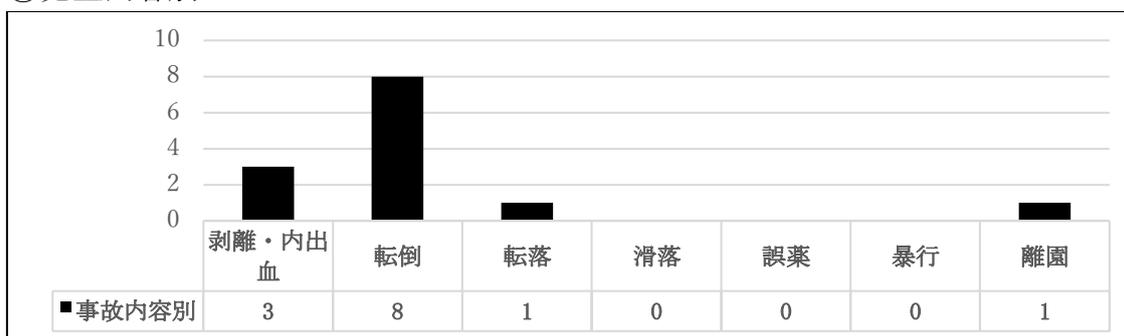
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○平成31年度報告件数

	平成31年度	平成30年度
事故件数	13件	8件

②発生内容別



③まとめ

前年度より、事故件数においては5件増加している。最も多い転倒事故については、突発的に起きたものが多く、職員の危機管理能力や危険意識といった課題が浮き彫りとなった。

また、離園事故も1件発生しており、ハイリスク者を他部署へ周知し、発生時のマニュアルを日々部署内で確認することとした。又、趣味の提供や他者との交流をメインとしたサービス提供を実施した結果、下半期においてはヒヤリハット件数も減少しており、落ち着かれている。次年度においては、情報共有はもちろんであるが、遠藤メソッドによる意識改革やサービスの質、介護技術の向上等、管理者による自主パトロールや技術標準を用いた研修・教育を重点におき、事故減少に努めていきたい。

8. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

①報告件数

報告件数	平成31年度			平成30年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		7件	7件	0件

②まとめ

前年度に比べ、件数は減少しているが、職員間の情報伝達不足やご家族との認識のズレ、説明不足が目立った。デイサービスとして、相談内容における返答を統一し、役職者間での情報伝達のズレを無くすことで、件数の減少に繋がると考える。

9. <<総括>>

問い合わせ・新規利用者数の増加と並行し、登録抹消者・入院者もあり、10月以降の充足率は減少値を示した。強みである、要介護者(3～5)に対してのケアの統一や情報共有を図る事で、職員の介護技術も向上しつつある。事故件数の増加の起因でもある、突発的な事故に対して危険予測が十分でない面もあり、課題としてあがった。次年度については、遠藤メソッドの介護技術標準による教育とケアの統一化。又、大慈デイサービスセンターの強みを活かした広報活動及び、自立支援を意識したレクリエーションや役割・習慣となるようなサービスの提供を行い、ADLの向上・維持を目的とした活動を推進していく。